



米商進路だより

令和3年11月15日発行
山形県立米沢商業高等学校
進路指導部（第22号）

《 自己研鑽力を身につけるために… 》

1年生を対象に、令和3年11月4日（木）に米沢信用金庫長井支店次長山内秀幸氏から「企業に求められる人財」というテーマで講演をいただきました。本校卒業生であり、学習や部活動等の話を交えながら、金融業に携わることのできる知識や技術、そして社会人になったときに最も求められる「信用」を築くために、高校生からできることについて話をいただきました。

「時間を守る」「約束を守る」「積極性を身につける」等は高校生のうちからできることであり学校生活を通して身につけてほしいとおっしゃっていました。また、最近では働き方改革を意識して、「時間管理能力」を求められることが多くなってきたので、1日の流れの中で優先順位（一歩先）を考えて仕事をする必要があると話をしていました。私たち教職員にも求められる力であると思ったところです。

現在、プロ野球日本ハムの新庄剛志監督の言動に注目が集まっています。監督就任会見では、これまでの常識を覆す服装に驚きました。現役のときから「宇宙人」等と揶揄（やゆ）されることがありましたが、実際は「陰での努力や準備、礼儀を怠らない常識人であること」が明らかになりました。選手に声をかけ、「挨拶を徹底する」「時間を守る」等の毎日の積み重ねが大事であると話をしていたことが印象的です。

講演後に行ったアンケート調査の中で、「あなたは将来就きたい職業を決めていますか」という質問がありました。はっきり決めているが12.8%、だいたい決めているが48.7%、まだ決めていないが38.5%います。現在実施しているキャリア教育の中で、将来の仕事のヒントを見つけ、卒業後の自分についてしっかりと考えて見る時間を確保してみてもどうでしょうか。

第一に大切なのはやっぱり信用を得ることだということがわかりました。その他にもどんな立場にあっても、一歩先のことをやっておくと全てまかされた時に仕事ははかどるとおっしゃっていました。これは、社会に出てからではなくとも、学校生活において今から実践できる行動の一つだと思うので今度から気にかけて過ごしていきたいと思います。

1円でも金額が足りないと合うまで帰れないとい話は印象的でした。今、簿記で決算をやっていますが、このようなことをプロの現場で間違いがないかたくさん見直しをして仕事をこなしているのがすごいなと思いました。そして金額が合わなかった場合でも、÷2や÷9などをして金額の間違いを見つけるところも勉強になりました。



講演会の様子

《 ディズニーランドのお子さまランチ（お客様に夢と感動を！） 》

本日は「ディズニーランドのお子さまランチ」の話です。有名な話ですので聞いたことがある人がいるかもしれません…。私は、講演会で聞いた話ですが涙が止まりませんでした。

夢の国とも言われるディズニーランド。ディズニーランドに行くと多くの感動を味わうことができますね。その感動はアトラクションやパレードだけではなく、ディズニーランドで働いているスタッフの対応も素晴らしいと度々話題になりますね。今回ご紹介するのはある夫婦とディズニースタッフの感動のエピソードです。

若い夫婦が二人でそのレストランに入りました。店員はその夫婦を二人がけのテーブルに案内し、メニューを渡しました。するとその夫婦はメニューを見ずに「お子様ランチを2つ下さい。」とオーダーしたのです。店員は驚きました。なぜなら、ディズニーランドの規則で、お子様ランチを提供できるのは9歳未満と決まっているからです。

店員は、「お客様、誠に申し訳ございませんが、お子様ランチは9歳未満のお子様までと決まっておりますので、ご注文はいただけないのですが…」と丁重に断るとその夫婦はとても悲しそうな顔をしたので、店員は事情を聞いてみました。

「実は…」と奥さんの方が話し始めました。「今日は、亡くなった私の娘の誕生日なんです。私の体が弱かったせいで、娘は最初の誕生日を迎えることも出来ませんでした。子供がおなかの中にいる時に主人と3人でこのレストランでお子様ランチを食べようね”って言っていたんですが、それも果たせませんでした。

子どもを亡くしてから、しばらくは何もする気力もなく、最近やっと落ち着いて、亡き娘にディズニーランドを見せて三人で食事をしようと思ったものですから…」店員は話を聞き終えた後、「かしこまりました」と答え、その夫婦を二人掛けのテーブルから、四人掛けの広いテーブルに案内しました。

さらに、「お子様はこちらに」と、夫婦の間に子供用のイスを用意しました。やがてそのテーブルには、お子様ランチが3つ運ばれてきました。そしてその店員は笑顔でこう言いました。「ご家族で、ごゆっくりお過ごし下さい」

この夫婦から後日届いた感謝状にはこう書かれていました。「お子様ランチを食べながら、涙が止まりませんでした。まるで娘が活着ているように、家族の団らんを味わいました。こんな体験をさせて頂くとは、夢にも思っていませんでした。もう、涙を拭いて、生きていきます。また、来年も再来年も、娘を連れてディズニーランドに行きます。そしてきっと、この子の妹か弟かを連れて行きます。」

さて、この店員の行動は明らかに規則違反です。しかし、この行動について上司からおとがめを受けることはありませんでした。なぜなら、この店員はディズニーランドが最も重要視しているルールに従って行動したからです。彼の行動こそ『お客様に夢と感動を与えること』だったからです。

出典：ameblo.jp